



馬耳東風

先日受診した人間ドックの待合室のテレビモニターで久しぶりに衆議院予算委員会の国会中継を見た。オミクロン株まん延を中心としたコロナ対策、外交・防衛問題、財政問題等、抑揚のない質疑応答が繰り返されるいつもの光景…。そう思ってボーッと見ているうちになんとなく強い違和感が湧き上がってきた。何だろう……。しばらくしてその原因がわかった。それは画面から、質問する方も答弁する方も分厚い書類に目を通しながら進行するさまが流れてきていることにあった。

世はまさにSDGs, ESG, DX, ペーパーレスの時代。今では小学生でも口にする内容に対して、国会自らそこに逆行する姿を全国放送で国民にさらけ出している、国を挙げてこの問題に取り組むべき時に大丈夫なのかなと思う。いろいろな理由はあるにしろ、これがまさにわが国の現在の実力、どんどん世界から置いていかれるだろうなどと考えさせられた。

ある日本語学校の学生に日本に来た時の第一印象を質問したところ、「日本人が現金を使っていることにとてもびっくりした」と答えたとの話を聞いたことがある。答えた学生は東南アジアからの留学生であったが、確かに筆者も彼の地の旅行の際には現金を持ち歩かず、ほとんどスマホのアプリで決済を済ませてきた経験がある。日本は進んでいる国だと思って来日したものの、キャッシュレス化が全く進んでいない現状を目の当たりにして彼はどう思ったことか。

先日アフリカから帰国した友人からも面白い話を聞いた。現在アフリカではものすごい勢いでブロックチェーン技術が社会に浸透しているというのだ。

例えば仮想通貨。聞くところによるとそもそも人々は

貨幣を信頼していないし、信頼できる貨幣を造る技術もない、偽札は出回るし、そしてお金を預ける銀行が信用できないというのだ。そうなると仮想通貨がその救世主となって大活躍しているのだという。日本では全く想像できない状況ではあるが、だからこそ新技術、時代のトレンドがスピーディーに社会に受け入れられどんどん変革していくのだろう。まさに、持たないものの強みである。

余談だが2050年世界のGDPの推計では日本とナイジェリアは僅差で7位、9位との予想もある。経済大国と言われた日本の面影はそこにはない。

さて、われわれの業界を見渡してみるとどうだろう。お世辞にも社会の先端を走っているようには見えない。その原因は多々あると思うが、一つはどの分野も成熟産業になってしまったことに起因するのではないか。

過去の成功体験、変わることへのリスクの議論、労力・コスト計算によって身動きが取れない、まさに持てるものの弱みが露呈している。

成長過程においてはどんどん新しいものを取り入れ、競争のスピードが加速して変革、発展を遂げるわけだが、成熟に達したわが身においてその決断は容易ではない。

かのトヨタが昨年末に「2030年までに30車種のBEVを展開し、グローバルに乗用、商用各セグメントにおいてフルラインで揃える」と自社の変革の覚悟を表明したことが物語るように未来への方向性にもはや選択肢はない。

本年11月11日～13日、福岡でアジア獣医師連合（FAVA）大会が開催される。アジア・オセアニア地域23カ国・地域の獣医師会が集う国際会議である。

テーマは「アジアからのワンヘルスアプローチ」。この分野において日本がリーダーシップを取り、訪れる各国の獣医師及び関係者から称賛を浴びるイベントになることを心から期待したい。 (も)